

戦前の子ども情報誌を発掘 ^{うちだ} ^{とうこ} 内田 塔子さん(43)

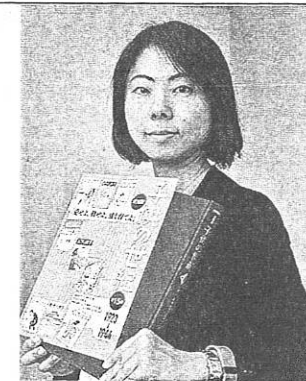
「探し続けていた資料が大量に目の前に。うれしくて震える手でページをめくりました」。2年半前、兵庫県姫路市の日本玩具博物館で、戦前の子ども総合情報誌「子供の世紀」180冊に出会った時のことは、今もはっきりと覚えている。

民間団体、大阪児童愛護連盟の月刊機関誌(1923年~44年、全252冊)。連盟は児童の愛護を訴え、機関誌は教育、福祉関係の論文、童話、詩、絵などを掲載。大正デモ

クラシー期からの活動は、戦後の児童福祉法や児童憲章、子どもの権利条約の理念に通じる。東洋大学で教えながら、散在する「子供の世紀」を基に研究を積み重ねた。

同誌は戦争中に廃刊。博物館で見つけた最終号の終刊の辞からは編集責任者の思いが伝わってきた。「戦争は、子育ての目標をお国のため『立派な兵士』をつくることにすり替えた。児童愛護の活動家たちの葛藤は想像に難くない。今後の研究で調べたい」

この人



昨年末から復刻版(六花出版)の発行が始まった。「幅広い分野の歴史研究に役立つ貴重な資料の復刻に貢献できてうれしい。未発見の29冊も探したい」

(森保裕)

2016.10.28